

授業科目	＊フィジカルアセスメント技術演習					単位	1		
履 修	必修	関連資格	高一種免（看護） 養教一種免			ナンバリング	NU11207J		
開講年次	1 年	開講時期	後期	該当DP	DP1-2 DP2-1 DP4-2				
担当教員	小田 日出子、隅田 由加里、金山 正子								
授業概要	【実務家教員担当科目】 ヘルスアセスメントすることの意義・目的を理解したうえで、看護の対象の身体状態を把握するために必要なフィジカルアセスメント技術について、実践の根拠となる基礎的知識とともに学修する。 授業は講義と技術演習を並行して進行する。特にスクリーニングの基本となる「バイタルサイン測定技術」については、看護基本技術の習熟度を確保する目的で、実技試験を実施する。実技試験を実施することで、基本的な看護の実践能力育成と強化を図る。 実務家教員として、医療の現場で実践してきた臨床看護技術の前提となる看護の基本技術の習得に向けて、その前提となる基礎的知識の確認・理解・定着を図るとともに、看護の対象者の安全・安楽・自立の尊重を原理・原則とする看護の基本技術の習得を支援する。								
学生が達成すべき行動目標	【知識・理解】 1. ヘルスアセスメント・フィジカルアセスメント・フィジカルイグザムのそれぞれの意味と関係性を説明できる。 2. Head to Toe の原則に則り、全身を概観する必要性が説明できる。 3. 呼吸器系、循環器系、消化器系、感覚・中枢神経系、および筋・骨格器系のフィジカルアセスメントの前提となる基礎的知識を述べることができる。 【思考・判断】 1. 学修した知識・技術を活用し、対象者の身体状態を論理的に思考・判断できる。 2. 身体面における健康上の課題を導き出すことができる。 【態度】 1. 看護の対象の状態把握に必要なフィジカルアセスメント技術を、実践の根拠となる基礎知識とともに修得しようとする姿勢を身につけている。 2. 安全・確実に対象者のバイタルサイン（T・P・R・BP）を測定しようとする姿勢を身につけている。								
達成度評価									
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート 外の提出物	その他	合計	備考	
総合評価割合	60	0	15	0	0	25	100		
知識・理解（DP1-1）									
知識・理解（DP1-2）	60						60		
知識・理解（DP1-3）									
知識・理解（DP1-4）									
思考・判断（DP2-1）			15				15		
思考・判断（DP2-2）									
関心・意欲（DP3-1）									
関心・意欲（DP3-2）									
態度（DP4-1）									
態度（DP4-2）						25	25		
態度（DP4-3）									
技能・表現（DP5-1）									
技能・表現（DP5-2）									
技能・表現（DP5-3）									
具体的な達成の目安									

理想的レベル		標準的なレベル		
【知識・理解】 1.ヘルスアセスメントとは何かについて、的確に記述できる。 2.ヘルスアセスメントに必要な5つの基本的技法(問診・視診・聴診・打診・触診)を挙げ、実施上の留意点を全て記述できる。 3.Head to Toe の原則に則って全身を概観する必要性を的確に記述できる。 4.系統別フィジカルアセスメントのうち、呼吸器系、循環器系、腹部、感覚－神経系、および筋・骨格器系のフィジカルアセスメントに必要な基礎的知識を、「事前学習」として学修ポートフォリオに記録・整理できる。 【思考・判断】 1.事例の身		【知識・理解】 1.ヘルスアセスメントとは何か説明できる。 2.ヘルスアセスメントに必要な5つの基本的技法(問診・視診・聴診・打診・触診)を挙げ、実施上の留意点を述べるができる。 3.Head to Toe の原則に則り、全身を概観する必要性が説明できる。 4.系統別フィジカルアセスメントのうち、呼吸器系、循環器系、腹部、感覚－神経系、および筋・骨格器系のフィジカルアセスメントに必要な基礎的知識を述べるができる。 【思考・判断】 1.事例の身体状態を論理的に思考・判断し、考えられる健康上の課題を		
授業計画				
進行	テーマ・講義内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)	予習・復習時間(分)
1	講義:ヘルスアセスメント概説（講義:小田日出子） 1.用語の定義(ヘルスアセスメント、フィジカルアセスメント、フィジカルイグザム) 2.ヘルスアセスメント・フィジカルアセスメント・フィジカルイグザムの関係性 3.対象者の全体を概観する目的・方法・必要性 4.系統別フィジカルアセスメントの意義・目的 5.心理・社会状態のアセスメント	本授業は、1回2コマの授業を計8回(16コマ)、1単位の必修科目であり、技術演習を中心とする科目である。 初回は、授業進行表を用いて科目概要を説明した後、「ヘルスアセスメント」に関する総論的講義を行う。	【予習】 ・テキスト:系統看護学講座 基礎看護学2 基礎看護技術 1 第2章 ヘルスアセスメント A.～C.を読んでくる。 【復習】 ・課題プリントに取り組む。 ・kaname.net 内の「フィジカルアセスメント」のうち、「健康歴の聴取」および「全身のスクリーニング」を視聴する。 ・kaname.net 視聴後、講義内容を振り返り、学んだ知識を整理する。 ・学んだ知識の蓄積とフィジカルアセスメント技術の実践・活用に繋がられるように、「学修ポートフォリオ」を作成する。	【予習】 30分 【復習】 60分
2	(講義:小田日出子／演習:看護学科助教・助手) 講義:全体の概観 1.フィジカルアセスメントに必要な技術 2.全身状態・全体印象の把握 3.バイタルサインの観察とアセスメント ・バイタルサインの定義 ・バイタルサインを観察する意義・目的 ・バイタルサイン(体温・脈拍・呼吸・血圧・意識)の観察に関する基礎知識 演習:バイタルサインの観察とアセスメント 1.「生きている」ことのアセスメント 2.体温・脈拍・呼吸(T・P・R)の観察 3.体温・脈拍・呼吸(T・P・R)のアセスメント	前回授業の振り返りを行った後、全体の概観に必要なフィジカルアセスメント技術について、主に③バイタルサイン(体温・脈拍・呼吸)の観察とアセスメントを中心に、小講義→技術演習の流れで授業を進める。次に、バイタルサインの観察とアセスメントのうち、「血圧」の観察とアセスメントについて、小講義→技術	【予習】 ・看護形態機能学;血圧、血圧調節のメカニズム、血圧の変動要因など、血圧測定に関わる生理学的知識の復習を行う。 ・テキストの該当箇所を読み、「学修ポートフォリオ」内に、1.で整理した既習の知識とともに「事前学習記録」として綴じておく。 ・kaname.net 上のコース;フィジカルアセスメント技術演習に事前に提示された「血圧」の技術手順書および参考資料(フローシート(経過記録)の記載方法)を読んでくる。	【予習】 60分 【復習】 90分

		演習(触診法/聴診法の流れ)を軸に授業を進める。 演習では「バイタルサイン」の測定方法全般を学修する。	【復習】 ・演習記録の整理と振り返り ・課題プリントに取り組む。 ・kaname	
3	(講義:小田日出子/演習:看護学科助教・助手) 講義:系統別フィジカルアセスメント-3 1.腹部のフィジカルアセスメント ・腹部のフィジカルアセスメントの目的 ・腹部の基礎知識 演習:腹部のフィジカルアセスメントの実際 ・腹部の名称(体表区分)と位置の確認 ・問診・視診・触診・打診の方法 ・腹部の聴診法(腸蠕動音の聴取法) ・肝臓の大きさの推定(肝臓スクラッチテスト) ・腹部(食べる・廃棄する)のアセスメント	腹部のフィジカルアセスメントに必要な基礎知識、腹部のフィジカルアセスメントの目的を説明した後、実際に、腹部の観察方法を演習する。 演習では、はじめに腹部の体表区分の名称と部位を確認、問診・視診・触診・打診の方法、および聴診による腸蠕動音の聴取を行った後、肝臓の大きさを推定する肝臓スクラッチ法についても、学生間で実施する。	【予習】 ・看護形態機能学;消化器系について、消化器官の構造と機能を復習する。 ・テキストの該当箇所を読み、「学修ポートフォリオ」内に、1.で整理した既習の知識とともに「事前学習記録」として綴じておく。 ・kaname.net 上のコース;フィジカルアセスメント技術演習に事前に提示したフィジカルアセスメント技術「腸蠕動音の聴取」の技術手順書を読んでくる。 【復習】 ・演習記録の整理と振り返り ・kaname.net 上のコース;フィジカルアセスメント技術演習内に掲示してある事後学習④をダウンロード	【予習】 60 分 【復習】 90 分
4	(講義:小田日出子/演習:看護学科助教・助手) 講義:系統別フィジカルアセスメント-1 1.ケアに繋げるフィジカルアセスメント 2.呼吸器系のフィジカルアセスメント ・呼吸器系のフィジカルアセスメントの目的 ・呼吸器系の基礎知識 演習:呼吸器系のフィジカルアセスメントの実際 ・胸部基準線の確認 ・問診・視診・触診・打診の方法 ・呼吸音(正常呼吸音)聴取の方法 ・呼吸(息をする)のアセスメント	呼吸器系のフィジカルアセスメントに必要な基礎知識を確認し、呼吸器系のフィジカルアセスメントの目的を説明した後、実際の観察方法を演習する。 演習では、胸部基準線の確認、問診・視診・触診・打診法を実際、および呼吸音聴取の方法について、学生間やシミュレーターを用いて学習する。	【予習】 ・看護形態機能学;呼吸器系について、呼吸器の構造と機能を復習する。 ・テキストの該当箇所を読み、「学修ポートフォリオ」内に、1.で整理した既習の知識とともに「事前学習記録」として綴じておく。 ・kaname.net 上のコース;フィジカルアセスメント技術演習に事前に提示したフィジカルアセスメント技術「呼吸音の聴取」の技術手順書を読んでくる。 【復習】 ・演習記録の整理と振り返り ・kaname.net 上のコース;フィジカルアセスメント技術演習内に掲示してある事後学習③をダウンロードし、	【予習】 60 分 【復習】 90 分
5	(講義:小田日出子/演習:看護学科助教・助手) 講義:系統別フィジカルアセスメント-2 1.循環器系のフィジカルアセスメント ・循環器系のフィジカルアセスメントの目的 ・循環器系の基礎知識 演習:循環器系のフィジカルアセスメントの実際	循環器系のフィジカルアセスメントに必要な基礎知識、循環器系のフィジカルアセスメントの目的等を説明した	【予習】 ・看護形態機能学;循環器系について、心臓の構造と機能を復習する。 ・テキストの該当箇所を読み、「学修ポートフォリオ」内	【予習】 60 分 【復習】 90 分

	・心臓の解剖学的位置の確認 ・心基部、心尖部の位置の確認 ・心尖拍動の触知部位と拍動(振幅)の確認 ・問診・視診・触診・打診の方法 ・脈拍・心拍同時測定 ・心臓の大きさの推定(心臓スクラッチテスト) ・正常心音聴取の方法 ・循環	後、実際の観察方法を演習する。 演習は、心臓の解剖学的位置、心基部、心尖部の確認、心尖拍動触知部位と拍動の確認、問診・視診・触診・打診の技術と心臓スクラッチ法による心臓の大きさの推定、脈拍・心拍同時測定および心音聴取の方法について、学生間やシミュレーターを用いて学習する。	に、1.で整理した既習の知識とともに「事前学習記録」として綴じておく。 ・kaname.net 上のコース;フィジカルアセスメント技術演習に事前に提示したフィジカルアセスメント技術「心音の聴取」の技術手順書を読んでくる。 【復習】 ・演習記録の整理と振り返り ・kaname.net 上のコース;フィジカルアセスメント技術演習内に掲示してある事後学習③をダウンロードし、各自	
6	(基礎看護学分野担当教員全員(小田 / 金山 / 隅田 / 看護学科助教・助手)) フィジカルアセスメント技術演習:実技試験 「臥床患者のバイタルサイン測定技術」	事前に配布し・説明したバイタルサイン測定技術の実技試験「実施要領」に則り、科目履修者全員を対象に、「臥床患者のバイタルサイン測定技術」の実技試験を実施する。	【事前の「自主演習」の進め方】 1.実技試験の実施要領、実技試験の課題(患者状況設定)、技術手順書に記載された手順の根拠等を参考に、また、自主練習に関する諸注意をよく理解したうえで、自主的・積極的に「バイタルサイン測定技術」の習得に向けた練習に、計画的に取り組む。 2.看護技術の習熟度を上げるには、何より日々の鍛錬が大事と考え、努力を惜しまない。 3.事前に提示した「技術評価表」の「評価の視点」を参考に、安全・確実なバイタルサイン測定技術の習得を目指して、繰り返し練習する。 4.自ら進んで教員に助言を求め	可能な限り自主練習時間を確保し、各測定技術の評価基準に到達できるように、また、観察の基本となる「バイタルサイン測定技術」を確実に習得できるように、各自、技術練習に励んでください。
7	(講義(90分、1コマのみ):小田日出子) 講義:系統別フィジカルアセスメント-4 1.感覚-神経系のフィジカルアセスメントに必要な基礎知識 ・感覚-神経系のアセスメントの目的 ・神経系の基礎知識 2.神経系のアセスメントとしての確認事項 ・意識状態 ・呼吸パターン ・対光反射・瞳孔の大きさ・左右差 ・高次脳機能障害 3.感覚のフィジカルアセスメントー脳神経	感覚ー神経系のフィジカルアセスメントの目的と方法、アセスメントに必要な基礎知識を中心に講義を行う。フィジカルアセスメントの具体的方法については、スライド、およびDVD視聴により説明する。	【予習】 ・看護形態機能学;感覚器と神経系について、それぞれの構造と機能を復習する。 ・テキストの該当箇所を読み、「学修ポートフォリオ」内に、1.で整理した既習の知識とともに「事前学習記録」として綴じておく。	【予習】 60分

8	(講義:小田日出子／演習:看護学科助教・助手) 講義:系統別フィジカルアセスメント-5 1.筋・骨格系のフィジカルアセスメント ・筋・骨格系のフィジカルアセスメントの目的 ・筋・骨格系の基礎知識 演習:筋・骨格系のフィジカルアセスメントの実際 ・問診・視診・触診・打診の方法 ・計測(四肢長、周囲径) ・筋力の評価法(徒手筋力検査;MMT) ・関節可動域(ROM)の計測 ・運動機能(歩行)、平衡機能、小脳機能等の評価法 ・運動(動く)のアセスメント	筋・骨格系のフィジカルアセスメントに必要な基礎知識、筋・骨格系のフィジカルアセスメントの目的を説明した後、実際に、身体計測(四肢長、周囲径の計測)、筋力評価のための徒手筋力検査(MMT)、および関節の可動性評価のための関節可動域測定(ROM)の方法について演習を行う。	【予習】 ・看護形態機能学;筋・骨格系について、「動く」ことに関する筋肉・骨・関節の名称、位置と構造、各機能を復習する。 ・テキストの該当箇所を読み、「学修ポートフォリオ」内に、1.で整理した既習の知識とともに「事前学習記録」として綴しておく。 ・kaname.net 上のコース;フィジカルアセスメント技術演習に事前に提示したフィジカルアセスメント技術「関節可動域(ROM)の測定」の技術手順書を読んでくる。 【復習】 ・演習記録の整理と振り返り ・kaname.net 上のコース;フィジカルアセ	【予習】 90 分 【復習】 90 分
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				

24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	看護形態機能学1・2			
テキスト	有田清子、ほか著(2019):系統看護学講座 専門分野1 基礎看護学[2] 基礎看護技術1(医学書院)			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	参考図書として、以下の書籍を推奨します。 1. 山内豊明著「フィジカルアセスメントガイドブック―目と手と耳でここまでわかる」(医学書院) 2. 大久保暢子編「日常生活行動からみるヘルスアセスメント―看護形態機能学の枠組みを用いて」(日本看護協会出版会) 3. 小野田千恵子監修「実践！フィジカルアセスメント―看護者としての基礎技術―改定第3版」(金原出版) 4. 村上美好監修「写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメント」(インターメディカ) 5. 松尾ミヨコ・志自岐康子・城生弘美編「ナーシング・グラフィカ			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	授業では看護の対象を観察するために必要なバイタルサインの測定技術やフィジカルアセスメント技術について、実践的に学びます。 限られた演習時間の中で、看護者として備えるべき確かな観察技術を身につけることができるように、各自、時間外も含めて、看護実習室を有効に活用し、学んだ知識・技術の定着と習熟を図っていきましょう。			
達成度評価に関するコメント	筆記試験(60%)、実技試験(25%)、課題レポート及び学習貢献度(15%)等により、総合的に評価する。			